

石川大夫の和ふる歌一首

二四七番

沖つ波おき なみ 辺波立つとも 我が背子が み舟の泊ま
り 波立ためやも

又、長田王の作る歌一首

二四八番

隼人の 薩摩の瀬戸を 雲居なす 遠くも我は
今日見つるかも

柿本朝臣麻呂の羈旅の歌八首

二四九番

三津の崎 波を恐み 隠り江の 舟なる君は
宿りし島に